

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 九州大学



【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム

**Energy-Environmental Science and Technology, Advanced School of International Alliance (EEST ASIA)**

【プログラムの目的・養成する人材像】

専門分野の深い知識を修得し、それに基づく研究開発能力、エネルギー環境問題の現状の理解と発展的考察力、グローバルに活動するために必要な英語力、を兼ね備えかつ研究/技術者倫理を持ち、異国の文化・人・社会を理解出来る人材

【構想の概要】

エネルギー問題とそれに関係する環境問題に関わる科学と技術分野において、将来グローバルに活躍できる高度研究者・技術者を国際連携の下で育成するためのダブルディグリー理工学大学院協働教育プログラムを、九州大学(KU,日本)、上海交通大学(SJTU,中国)、釜山大学校(PNU,韓国)が共同開発し、本格的に実施すること。

## ■ 質の保証を伴ったダブルディグリー(DD)取得のためのプログラム構築

### ○ 環境エネルギー理工学コースの設置

H24年度にDD取得を目指した学生交流協定に3大学が合意、発足した。これを受けて、環境エネルギー理工学国際コース(EESTコース)を創設し、そのための協同教育プログラム、カリキュラムを開発し、平成25年度より学生の受け入れを開始した。

### ○ カリキュラムの体系的設計、成績評価、学位授与方法の制度設計

単位移管/互換制度による単位の相互認定、成績評価、学位授与方法について、3大学間協働の制度設計を行い、そのための体制を各大学に構築発足させた。

### ○ 授業内容・評価および学位の認定過程および認定プロセスの質保証

本大学院共同教育プログラムの点検評価及びそれに基づく改善、共同教材の開発、参加学生の成績管理と学位認定の質保証について、日中韓大学コンソーシアム内の国際PDCA委員会、各大学の国内PDCA委員会での協議により、その実施方法を確認すると共に、その向上をはかった。またそれに対する外部評価も実施した。



〈3大学ダブルディグリー調印式〉

## ■ 国際性涵養のための学生交流、およびDDプログラム実現のための交換留学の実施

### ○ サマースクールの共同開催と学生の派遣・参加

本事業の主要教育プログラムの一つであるサマースクール(第1回)を3大学の共同事業としてPNUで開催した。DDコースの正規教育プログラムとすることを念頭に、専門知識の修得のみならず学生の国際性涵養をはかるためのプログラムを作成試行した。

KU,PNU,SJTUからはそれぞれ21名,11名、9名の学生を参加させた。



(サマースクール、LG電子見学)

### ○ 交換留学実施

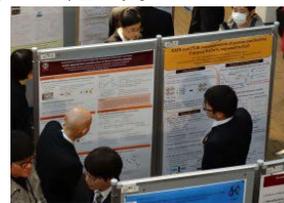
本事業初の交換留学(各校へ3名ずつ派遣、各校より3名ずつ受入れ)を実施し、H25年度以降に展開されるダブルディグリー取得の為のカリキュラムを作成試行した。

### ○ オータムセミナー(CSS-EEST#14)開催

学生交流事業として、PNUより38名、SJTUより22名の学生を招き、また、KUからは55名の学生が参加し、2日間にかわたり国際シンポジウムを開催した。

## ■ DD取得を目指した交換留学開始

平成24年度に3大学間で合意したDD取得のためのカリキュラムに従い、平成25年度から、KU、PNU、SJTU共にそれぞれ相手先2大学に5名の学生を、正規学生として入学させた上で、1セメスター(学期)の間、留学させることとした。SJTUおよびPNUからの留学生はそれぞれH24年4月、および9月にKUIに入学、その後1セメスターの間留学、KUの学生はPNU、SJTU共に9月に入学、1セメスター留学することとした。



(CSS EEST, セミナー風景)

## ■ 学生交流、学生の派遣・留学生受入の為の環境整備

### ○ 日本人学生の派遣

グローバル性の涵養のみならず、アジアを中心とするグローバルなキャリアパス形成を可能とするために、DD取得を目指した留学生はもとより、KUIに設置したEESTコースを選択する学生に対しても、EESTコース修了書及び就職活動に有益となる推薦書を発行するとともに、修学支援・就職支援・生活支援を強化し、日中韓の参加学生を全面的にサポートしている。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C10 K10	C25 K41	C6 K6	C27 K27	C7 K7
中国(C)での受入	0	J3 K3	J26 K26	J7 K7	J7 K7
韓国(K)での受入	0	J24 C13	C6 J6	C7 J7	C25 J37

注) H23・H24は実績、H25以降は計画。

### ○ 外国人学生の受入れ

国際交流コーディネーター1名と英語による講義経験を持つ専任教員2名(中国籍、韓国籍)および既存の教務課職員、当プロジェクト専用のスタッフ3名で構成したCAMPUS-Asiaオフィスを設置し、修学・生活支援や在籍管理を行っている。

### ○ 英語教育の実施

国際交流のための必須要件である英語によるコミュニケーション能力を高めるため、英語専門教師による少人数英語教育を行うと共に、TOEIC試験を受験させることによりその成果を検証している。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ HP <http://www.tj.kyushu-u.ac.jp/campus-asia/> FB <http://www.facebook.com/kucampus.asia>

プログラム独自のHP,FBを利用し、取り組み実施状況とプログラムの詳細など必要な情報について随時掲載している。また、このツールを活かし、適宜最新情報を掲載し広く周知をはかるとともに、日本語・英語のプログラム紹介パンフレット学生募集リーフレットを作成し、各大学の関係者や企業、学生への普及を図っている。